

(2年)

	今年度の課題	改善策	補充・発展指導計画	年度末評価
国語	<ul style="list-style-type: none"><li>新しく学習した漢字の定着が不十分である。</li><li>自分の気持ちや考えを文章で表すことに個人差が見られる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>漢字を使った言葉や文作りを、作文等の課題の中に取り入れる。</li><li>漢字テストで8割を超えるように、繰り返し練習をさせる。</li><li>書き方が分からない児童に書くことの手立てを提示する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>国語の授業以外にも、言葉集め、短文づくりを取り入れる。</li><li>体験を作文に書く活動を多く取り入れる。その際、教師の例文を毎回提示して、全員が書きやすい題材にする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>漢字学習を丁寧に行ったので、書き順や使い方に練習をして、ほとんどの子供が正しく身に付けることができた。</li><li>作文やリーフレット等を子供同士で読みあう活動をして、相手に伝わる文を書くことができた。</li></ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"><li>文章問題で問われていることを読み取ることができない。</li><li>計算のスピードに個人差が見られる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>操作活動を多く取り入れ、問題の意味を捉えられるようにする。</li><li>図に描いて意味を考えさせる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>東京ベーシックドリルを活用し、基礎的基本的な知識、技能を習得させる。</li><li>新しい内容の学習では、既習事項を使い説明する場面を多く取り入れる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>2学期の東京ベーシックドリルで不正解の多かった内容を復習した。3学期には同じような間違いが少なくなった。</li><li>答えを出すだけでなく説明をする経験をさせ、理解を深めることができた。</li></ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"><li>観察する際、何についてまとめればよいか理解できず、観察カードを書くときに悩むことがある。</li><li>観察カードを書くときに見たままの形に書くことが難しい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>観察するときの視点を確認し、観察しているときに具体的に声を掛ける。</li><li>植物を観察するとき、実物をよく見たり、触ったりしながら観察カードを書かせる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>実物を見た後にマイコンを使い、観察するミニトマトの写真を撮り、写真を見ながら教室で落ち着いた環境で観察カードを書く。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>1学期の校内研究で、ミニトマトを観察し、理想のトマトに育てるためにどのように働きかければよいか考えることができた。</li></ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"><li>鍵盤ハーモニカの運指が十分に身に付いていない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>階名唱、指番号で歌う等、段階的な指導をすることで、運指を正しく演奏することができるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>「ふこうよけんばんハーモニカ」の冊子を使用し、繰り返しのフレーズや、簡単なメロディーで、児童の意欲を高める。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>階名唱や指番号で歌うことで、運指や息遣いを意識して演奏できるようになった。</li></ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"><li>生活経験の差があり、技能にも差がある。絵の具などの用具の使い方の指導が必要である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>道具や身近な材料などに関わる体験を増やし、繰り返し指導していく。</li><li>パレットやバケツなど用具の使い方や、制作のポイントを視覚提示する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>発達段階に合わせた授業を計画する。</li><li>板書計画や掲示の工夫をする。</li><li>必要に応じて個別指導をしていく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>クレヨンや絵の具、紙粘土など様々な材料を使うことによって、道具の使い方の指導を徹底し、用具の使い方の技能が向上した。作品の色遣いも工夫することができた。</li></ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"><li>投力、走力、跳力の技能が低い傾向にある。</li><li>ボールを投げたり、捕ったりすることが苦手である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>体育の授業の準備運動などで固定遊具を使い、様々な体の動かし方を体験させる。</li><li>繰り返しボールを使った運動を行う。</li><li>体の動かし方を理解するために、動画を見て改善につなげる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>授業だけではなく休み時間の遊びでも、固定遊具に取り組みさせる。</li><li>休み時間にクラス遊びの時間を増やす。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>体育の授業や休み時間などに、ボール運動や鬼遊び、縄跳びなどに取り組み、様々な体の動かし方を体験することができた。</li><li>個人差が大きく、今後も苦手な児童にはこちらから働きかける必要がある。</li></ul>